

ANARCHY **ONLINE**

net crime / net sex

BACKSPACE

CHARLES PLATT

alt

esc

キーをたたく 犯罪者たち

チャールズ・プラット【著】 戸根由紀恵【訳】



HIERCHY

http://www.me/net:sex

1999.10.11

江苏工业学院图书馆

藏书章

●著者紹介

チャールズ・プラット Charles Platt

SF 小説からコンピュータのガイド書まで約 40 冊の著作を持つ。小説「シリコン・マン」(ハヤカワ文庫)は、〈ニューヨーク・タイムズ〉誌で年間最優秀 SF の 1 冊に選ばれる。雑誌〈WIRED ワイアド〉のレギュラー執筆者。ニューヨーク在住。

●訳者紹介

戸根 由紀恵(とね ゆきえ)

上智大学卒業。主な訳書には、「マリリン・モンローの男達」(近代文芸社)、「『ジョン』の魂との対話」(大栄出版)、「エッセンシャル・ガイド④ ブルース」(キネマ旬報社)、「死体を愛した男」(翔泳社)、「FBI 心理分析官 凶悪犯罪捜査マニュアル(上・下)」(原書房)などがある。

キーをたたたく犯罪者たち

一九九七年一〇月七日初版印刷
一九九七年一〇月一七月初版刊行

著者 チャールズ・プラット

訳者 戸根由紀恵

装丁 大橋博通

発行者 荒井秀夫

発行所 株式会社ゆまに書房

東京都千代田区内神田二一七ー六

電話 営業部〇三(五二九六)〇四九一

編集部〇三(五二九六)〇四九二

印刷・製本 (株)三秀舎

定価はカバーに表示してあります。

落丁・乱丁は、送料小社負担にてお取替
えいたします。

© 1997 Printed in Japan

ISBN4-89714-190-7

謝 辞

もともと『ワイアド』誌の依頼で執筆した、〈HOPE〉の会議、ブルース・ファンチャーおよびパトリック・クルーパに関する章、衛星放送電波を横取りする海賊たち、司法省のスコット・チャーニーおよびシンシナティでの一斉取り締まりの章は、本書に掲載するにあたって、大幅に加筆修正した。ACLUのアン・ビーソン、電子マネーヘデジャッシュのデイヴィッド・シヨーム、サン・マイクロシステムズ社のビル・ジョイ、〈UNet〉のデイヴィッド・ローレンス、〈PGP〉考案者のフィロ・ジーマン各氏へのインタビューは、本来は『ロサンゼルスタイムズ』紙として取材したもので、同紙ではごく短い引用しか掲載しなかった。

ノンフィクションを執筆するにあたっては、多忙な方々に時間を割いていただき、質問をぶつけ、私とその答を活字にしたときに間違いを犯していないかをチェックしてもらうという作業が不可欠になってくる。オンラインの世界からは惜しみない援助と大いなる信頼を寄せていただいた。話を聞かせていただいたかたがたの期待に応えるべく、最善の努力をしたつもりである。

特に、ブルース・ファンチャー、マイク・ゴッドウィン、パトリック・クルーパ、デ克蘭・マクラ、ジム・トマス各氏に対しては、主要な執筆材料とさらに発展的な情報入手先を教授いただいたことに感謝したい。とりわけゴッドウィン氏には惜しみない助力をいただき、ご本人が当時執筆中

だった本のために集めていた情報をわけていただくこととなった。

そのほかにも情報や助言をくださったかたがたに謝意を述べておきたい。ジョウゼフ・アレン、デイヴィッド・バニサー、アン・ビーソン、スチュワート・ベラハ、トム・ベッツ、ステイヴ・ブラウン、デイヴ・バックウォルド、スコット・チャーニー、デイヴィッド・ショーム、コンキー・ジョー、エリック・コリー、バリー・クリミンズ、ルイス・デ・ペイン、ジェフ・デルパパ、フィリップ・エルマー・デウィット、ボブ・エマソン、ダン・ファーマー、ジョエル・ファア、ジョン・ギルモア、チャールズ・グラサー、スコット・グリーンウッド、ケイティ・ハフナー、ヘンリー、キース・ヘンソン、ドナ・ホフマン、ステイヴ・ジャクソン、ビル・ジョイ、ケヴィン・ケリー、ピーター・ケネディ、スーザン・キム、キャメロン・レアド、ゲオフ・ラングデル、デイヴィッド・ローレンス、ロン・マクドナルド、スコット・マディガン、フレッド・マーティン、デイヴィッド・マクルーア、プロック・ミークス、マイケル・メータ、ステイヴンス・ミラー、マフィー、ダグラス・マルコフ、リー・ノガ、グレッグ・オンブルスキー、クレオ・パスカル、ブレット・ペティコード、ローズ・プラット、デイヴィッド・ポスト、ジョシユア・クイッター、クリストファー・リーヴ、ブライアン・リード、ジャック・リカード、ドナ・ライリー、マーティン・リム、ランス・ローズ、アレクシス・ローゼン、ルイス・ロセット、シャビル・サフダー、セス、ローン・シャンツ、ロバート・ステイール、ブルース・スターリング、ブラッド・テンプルトン、ピーター・トレイ、デイヴィッド・ヴォー、ユリ、フィル・ジーマン、そして引用させていただいた〈Usenet〉の匿名のかたがた。

本書の出版、編集、原稿整理、事実照合、『ワイアド』誌でのチェックをしてくれたみなさんにも

お礼を申しあげたい。ルイス・ロセット、ケヴィン・ケリー、ジョン・バツテル、マーサ・ベア、キム・ヘロン、マンディ・エリクソン、ロッド・シンプソン、インジャ・ローワンスタインそのほかのかたがたである。

多くのデータと初期のオンラインの歴史については、〈MindVox〉を大いに利用させていただいた。これは現在もつとも自由で興味深いインターネットのサイトであり、因習打破の気風と、初期の電子通信世界を記録するユニークなアーカイブを誇っている。〈MindVox〉には、インターネットのphantom.com か、電話で(212)989-2148(一般通話)か(212)843-0801(モデム、N-8-1)まで。

インターネットでの調査では、〈Panix〉を大いに利用した。このサイトには、大手のヘコンピュサーブや〈AOL〉などの何分の一かの費用で確実に自由にアクセスできる。〈Panix〉には、インターネットのpanix.com か、電話で(212)741-4400(一般通話)か(212)741-4444(モデム、N-8-1)まで。

刻々と創造的な変貌を遂げていく電脳空間が重大な岐路を迎えるたびに、デイヴ・バックウォルドは冷徹に事実を分析した意見を提供してくれた。また、本書のタイトル(原題『アナーキー・オンライン』)についても、なかなかの奇抜なアイデアを頂戴した。

ラス・ガレンが、まだ利用者がほとんどいなかった何年も前に、筆者に電子メールの利用を勧めてくれた。ブルース・ファンチャーは、筆者が「インターネット」の何たるかを知らないところに、アカウントを用意してくれた。私のひとり旅でもいつかはこの到達点にたどりついたかもしれないが、ふたりのおかげで、道中はずいぶん短いものとなった。

またジョン・シルバーサックは、意図的か本人も気づかぬままかいずれにしろ、本書の執筆を助けてくれ、ジョン・ダグラスのおかげで出版にこぎつけることができた。装丁については、成田恵理子

がいつもながら細心の注意を払ってこれを担当してくれた。
みなさんに心からのありがとうを。

はじめに

厄災の予言者とハイテク狂信家

かくも多き対立！

かくも多き混乱！

かくも少なき共通の基盤！

かたや厄災の予言者がいる。彼らによれば、インターネットとは犯罪者と変質者が巣くう法なき下水道だ。子どもがログインすれば、卑猥な画像を見て不良になるか、小児性犯罪者の餌食にされる。おとなが何かのソフトをダウンロードすれば、コンピュータウイルスに感染してハードディスク・ドライブを食い荒らされる。インターネットは品位ある人々を墮落させ、地域社会を破壊し、人間の価値を下落させるに違いない。「世界戦争 サイバースペースおよび現実に対するハイテクの襲撃」を著したマーク・スラウカの言葉を借りるならば、われわれは電脳空間サイバースペースなどには目をやらずに、「手遅れにならないうちに、きちんと現実世界と折り合いをつけていかななくてはならない」のである。

かたや、仮想ユートピアの到来を約束するハイテク大好き派がいる。彼らによれば、インターネット

トは權威主義的な政府の土台を浸食し、富を創出し、少数派に力を与え、社会を改革するはずである。「(インターネットは)グーテンベルク以来最大の発明だと常々思っていたが、今や、これに比肩できるものを捜すにはもつと大昔に遡らなくてはならない」というのは、〈電子フロンティア財団〉の共同創設者ジョン・ペリー・バーロウだ。全世界的なネットワークができれば、「人類が火を手に入れたとき以来の最大の技術革新として世界を変えることになる」と彼は真顔で主張する。

こうした極端な恐怖と誇大広告が相並んでいる以上、オンラインの世界が戦場と化したのも当然だった。

この戦争では、目下は厄災の予言者側が一応の大勝利をおさめている。保守的な議員連中が後ろ盾についているし、ハッカーやネット上でやりとりされるポルノに関するヒステリックなニュース報道も援護射撃をしてくれたからだ。事実、マスコミは、インターネットを恐ろしげな世界として描こうと必死だった。

さて、たしかにハッカーは他人のコンピュータに不法侵入しているし、たしかに卑猥な情報は子どもが自由に目にできる環境に入りこんでいる。しかしながら、こうした脅威から皆さんを守ってあげましようとはばかりにしゃしゃり出てきたのは、インターネットのことなどよく知らないし、下手をするといインターネットなどと聞くだけでぞっとするという議員たちが大あわてでこしらえた法律だった。その結果、誰かのコンピュータを通り抜けただけで、あるいはオンラインで「くそ!」と悪態をついただけで牢屋に放りこまれてしまうような方向に社会は進んできている。

もちろん、自由主義者はこれに果敢に戦いを挑んできた。彼らは、私的な電子メールの入ったシス

テムを押収したとしてシークレットサービスを訴えた。電子掲示板の所有者および利用者が憲法で保障されている権利を侵したとして地元警察を訴えた。また電腦世界の品位を取り締まる法律は違憲だとして、市民団体が地方自治体に訴訟を起こした。筋金入りの自由論者によれば、サイバースペースを管理しようとする法律はすべからずお門違いの余計なお世話で、うまくいくはずがないという。というわけで、どうみても今はまだ双方が歩み寄る余地はなく、これからも絶体にあ協はしないだろう。オンラインでの自由という問題もこうしてめでたく、中絶や、抗議として星条旗を焼き捨てる行為や、ドラッグの使用といった難問の仲間入りを果たし、一筋縄で解決する見こみはなくなつたというわけだ。

私は、問題の原因の大半は情報不足にあると考えている。保守派の多くはメディアの報道に度肝を抜かれて、自分でインターネットをのぞいてみようなどとは思ひもしない。彼らはインターネットのことなど知りたくもない。ただ規制したいだけだ。逆に、ハイテクおたくの一部は彼ら一流の近視的なものの見方に縛られて、道に外れたオンラインが現実社会問題を引き起こしていることを認めようとしなない。

この本の目的は、こうした情報のギャップを埋めることにある。第一部では、電腦世界での犯罪の実害を考えてみたいと思う。自宅でコンピュータを使う者や企業のネットワークにとつて、ハッカーやデータ泥棒はほんとうに脅威なのだろうか。彼らの動機ややりかたはどんなものなのだろうか。新しい法律は、ほんとうに私たちを不法侵入や乱暴狼藉やコンピュータウイルスから守ってくれるのだろうか。私たちはどうすれば自衛できるのだろうか。

第二部では、ネット上での交信に端を発した問題を探っていく。オンラインには、実際にどのくらいの量のポルノグラフィが存在しているのだろうか。そのうちのどれだけが法に抵触しない程度の猥褻物のだろう。それを規制すべきだろうか。そもそも規制などできるのだろうか。インターネットに接続すれば、誰もが何百万人を対象とした発信者になれる今、脅迫や中傷や偏見に満ちた発言といったある種の自由な表現に私たちは関心をもつべきなのだろうか。

インターネットでは恐怖と自由は隣り合わせだ。恐怖に負けて、政府に規制してくださいと頼みこめば、私たちは自動的に自由のいくばくかを犠牲にすることになる。これこそが、法なきオンラインの世界が突きつけている問題だ。サイバースペースを、ジョージ・オーウェルが描き出したような政府の監視の目が光る世界——すなわち自由な発言は封じられ、うかつに率直な意見など口にできない悪夢の世界——にしてしまうことなく、文明化していく方法を見つけることこそが私たちの課題となっている。

インターネットに対して単純すぎる見方しかない限りは、こうした複雑な問題に取り組むことはできない。私たちはまず、サイバースペースの実像をはっきりと見すえ、その仕組みを理解し、その歴史を学び、その危険度を把握し、規制した場合の結果を考えてはならない。これができてはじめて、このユニークで重要きわまりない意志疎通媒体の将来について、賢明で分別のある選択ができるのである。

チャールズ・プラット

ニューヨーク市、一九九六年六月

はじめに

viii

キーをたたく犯罪者たち 目次

謝辞
はじめに

ネット・クライム

3 ハッカー

5 〈Tap〉誌の電話フリークたち

8 まつとうな社会からの逃亡者

10 マイクロコンピュータの夜明け

12 電子世界のエデンの園

15 海賊たち

18 オンラインでの一騎打ち

26 おとり作戦

28 サンデヴィル作戦

36 まつとうな社会への復帰

37 九〇年代のシステム破り

42 見えないサイト

47 犯罪はどこに？

54 ヘダーク・ファイバーへのインタビュ

57 ダークサイドからの物語

60 物語と栄光

66 ジュール・ベルヌからジョン・マ

69 マーコフの物語

77 危険

83 売れる商品

84 ロスコの物語

90 カリブの海賊たち

92 二百万人の犯罪者

ANARCHY ONLINE

ネット・セックス

シヨック! 199

ネットスピーチ早わかり 204

〈堅物研究者リム〉、〈お下劣マーティン〉に会う 208

まぎらわしいデータ 216

痛恨の統計値 219

徹底的暴露による徹底的辱め 220

学者たちからの総攻撃 234

リムの反撃 241

素顔のマーティン・リム 243

残酷な正義 248

アクセス、内容、そして配給 250

セックス・ドラッグ、そして「勝手にしやがれ」 253

〈Usenet〉の起源 255

過激な内容 258

「スパム」をキャンセルする 265

メッセンジャーを撃て 273

憎悪のグループを追跡する 278

地元共同体の規範 283

小児性愛者の遊び場 291

子どもを使ったボルノの撲滅 306

子どものボルノグラフィーは厄災か 309

チャンネル#littlegirlsexを探索する 317

フィルタ 330

オンラインのエンジェル 334

米国各州の現状 341

警察官のBS 343

- 149 ウェブ・サイトへフエドワールド無料ツアーにご招待
- 130 たかがテレビじゃないか、だらう？
- 135 かなりお馬鹿なスマートカード
- 125 楽しさと金儲けのためのチップ増設
- 116 ニューオリンズのおとり作戦
- 114 海賊を撲滅する方法
- 110 目的は金儲けだけさ
- 104 コードと対抗措置
- 101 コード配給ネットワーク
- 97 海賊の入り江に流されて
- 100 肉料理のわきにはモデム
- 167 CIAをはみでた一匹狼
- 166 反対意見
- 153 対面
- 146 法律の限界
- 143 電波泥棒——第二の波
- 140 人々の意志
- 138 合法的な電波泥棒
- 178 ミケランジェロ参上
- 181 破滅の商人たち
- 191 脅威に対する考え方

ANARCHY ONLINE

- 妄想症のお仕事 346
- 独学のシスオペ、すべてを失う 348
- ハミルトン郡の保安官 351
- ネットユーザー、反撃する 354
- ぞっとする効果 358
- 高潔なる反対 363
- 四匹の子豚 368
- オンラインの脅迫状 378
- 「実行しなくちゃ気が済まないんだ」 382
- 時を刻む時限爆弾 387
- 負け戦 389
- 言葉だけで罪になる 391
- 漠然とした恐怖 398
- ブライバシーの追求 402
- 完全なるブライバシー 414
- 電子マネー 416
- 『ローリング・ストーン』誌再訪 428
- ネット世界の悪夢のシナリオ 434
- おわりに 445
- 補遺 1 米国各州の現状 455
- 2 便利なウェブ・サイト 465
- 3 ポルノなき世界への祈り 469
- 日本の読者のみなさんへ 473
- 訳者あとがき(戸根由紀恵) 477
- 補説・日本における情報化と「キーをたたく犯罪者たち」(大串夏身) 481

net crime

ネット・クライム

一九七〇年代に電話フリースタチが長距離通話回線ツラシを操作しはじめた当時から現在まで、システム破りクラッキングの方法と動機はほとんど変わっていない。しかし、連邦政府が苛酷な刑を科してきたにもかかわらず、その活動の規模は驚異的にふくれあがっている。いまやコンピュータ犯罪はジャーナリストにとっては格好のネタであり、法律制定者にとっては有権者に実力をアピールできる肥沃な土壌であり、この双方とも必死で電脳世界の恐怖を喧伝している。しかし、実際の被害や犯罪による損得を眺めてみると、そこにはまったく別の世界が見えてくる。

ハッカー——今日の前にある脅威それとも潜在的脅威？

フットボールのコーチを思わせる体格のいい男がひとり、ロサンゼルスのある家のポーチにそつと一歩目の足をのせる。白いスニーカーに青のスボン、紺色のウィンドブレーカーの背には白く大きな文字で「POLICE(警察)」とある。男は右の腰のホルスターの銃にかけた手に力をこめる。鳥の音がする。そよ風に木々が揺れる。朝の九時半、カリフォルニアの晴れた朝だ。

「警察だ」男は叫ぶ。「ドアを開けろ。ドアを開けるんだ！」一ブロック先の犬も目を覚ますほどの大声だ。左手には捜査令状が握られている。男は玄関の扉の薄い羽目板を拳固で叩いた。

警官がもうひとり加わり、背中をびたりと脇の外壁につけた姿勢をとる。最初の警官より若くほっそりとして、ゆるくちぢれた黒い髪は首筋まで伸び、顔立ちは端正ながらどこか凄みを感じさせる。角張ったあごがガムを噛むのに合わせて規則正しく動いている。白いスエットシャツにサングラスという格好は、警官というより映画俳優のようだ。片手には警官のバッジ、もう一方の手には九ミリ口径の自動小銃が握られている。銃の照準がびたりと合わされた先は、玄関の扉と周囲の枠との細い隙間だ。

扉が二十センチほど開くと、ふたりは押し開けて一気に中に踏みこむ。薄暗い室内には男がひとり思わず後ずさりして、怯えた表情をみせる。白いスエットシャツの警官がその顔に銃を向けて叫ぶ。「手をあげろ！」

「壁に向かって立て」ともう一方の警官が命じる。ふたりは男の肩に手をかけ、手荒に自分たちのほ